

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600544		
法人名	医療法人社団 昭桜会		
事業所名	グループホーム サクラピア成田		
所在地	千葉県成田市寺台251-20		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成29年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームサクラピア成田は、「歴史の町・国際都市」成田市寺台地区に位置し、成田山新勝寺や近隣スーパー等の地域資源豊かな地域にあります。「おもてなし、快適さ、楽しさ」を運営理念とし、利用者が快適に楽しく充実した生活が出来る様に、散歩・外出・日常生活等、利用者個々のニーズに添えるべく、日々のケア・生活支援を提供させて頂いております。また、生活保護の方の入居も受け入れております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/17/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/17/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成29年2月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は認知症の様々な行動を表す利用者向き合いながら最適な支援を行っている。外出支援では、散歩を多くする要望に応じて、近くの公園を1時間30分以上かけて散歩している。健康面では、体調を崩して昼夜逆転した利用者を、24時間細かに注視して、様子を申し送り漏れなく伝えて適切に支援している。妄想の症状では、利用者が鏡に映る自分の顔を他人と考えているが、話を否定しないで話し合いながら落ち着いてもらうようにしている。排泄支援では、オムツを汚して隠そうとするが、否定せずその場所を空けて注意して確認するなどの対応をしている。利用者の高齢化により認知症の状況が変化しているが、職員は話し合いながら利用者の生活を否定しないで最適な支援をするように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	おもてなし・快適さ・楽しさを事業所理念として、共有して実践につなげていくように日頃の申し送りやカンファレンスにて定期的に周知して頂ける様に伝えている。	理念を理解して支援をおこなうように、毎月職員に説明している。認知症の支援で、利用者の生活習慣や一人ひとりの関係づくりなど具体的なことを話し合っって理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流がほとんど出来ていないので、今後の課題として捉えている。	地域の祭の際の神輿を見学する機会や、リサイクルの廃品回収の活動に参加するなどの交流を重ねている。今後は文化会館で開かれる催しに参加して、地域と交流を増やすことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた取り組みが出来ていないのが現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をほぼ開催できなかったが、会議内で出た構成員の意見はサービス向上に活かす様にしている。	運営推進会議には自治会の役員、行政、家族が参加している。施設の活動報告とボランティアの受け入れ、行政の研修の取り組み説明など話し合っている。	運営推進会議では施設の活動内容、安全対策、家族の要望を話し合っている。今後は2ヶ月に一度計画通り開催することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課・社会福祉課の担当者と実情を報告し、協力関係を構築できる様に努めている。	行政には利用者の状況を毎月報告している。介護認定の更新の報告、入退去の状況を説明し話し合っている。また生活の状況や医療の補助金について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加できていない現状があるので、出来る限り改善して行ける様に努力し、身体拘束に対する正しい知識を共有できる様に取り組んでいきたいと考えている。	身体拘束の対象者はいない。職員にはミーティングで上から目線の言葉遣いに注意することや、利用者と感情的にならないように間を空けて支援することなどを指導している。	職員の研修はミーティングによる指導を重視している。しかし、新しい職員が入社していることもあり今後は外部での研修を含めて計画的に実施することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する研修に参加できていない現状がある為、研修へ参加し学ぶ機会を設け、虐待に関する知識を共有できる様に取り組んでいきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修等に参加できていないので、研修の参加等、理解できる体制構築できるように取り組んでいきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り御家族様に理解して頂ける様に、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、または電話にて状況報告をさせて頂く際に、要望があれば聞かせて頂き、ケアに反映させるべく申し送り時やカンファレンス等にて話し合いを行っている。	家族と話し合い、要望を確認して支援に反映している。軽い作業や庭の清掃など担当を決めて手伝うようにしている。家族から外出の要望を受けて、1.5時間の散歩を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やカンファレンス開催時に、意見を聞く機会を設けている。	職員はミーティングで、最適な支援に繋がる点を話し合いながら対応している。体調に合わせてシャワー浴にすることや、排泄の際に利用者の体面を守りながら行うなどを支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場となるべく、出来る限り職場環境・条件の整備を行えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の関係で研修への参加の機会確保ができていない。今後の課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される成田市小規模多機能グループホーム連絡会において、同業者間の交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通じて、出来る限り本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階だけでなく、状況に応じて御家族様と連絡を取り合いながら、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	コミュニケーションを通じて、必要としている支援に対して、柔軟に対応できる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「おもてなし・快適さ・楽しさ」の根本理念の下、本人の状況を日々観察・確認しながら関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様に自由に面会して頂き、外出を希望される際には外出支援をしたり、共に本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方のご訪問等、関係が途切れない様に、本人の情報・御家族の情報を元に支援している。	馴染みの人の訪問は自由に受け入れている。友人が遠方から定期的に訪れて話し合うことや、近所の方が気軽に訪れて利用者と過ごしている。近くの大型ショッピング施設や空の駅に買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を個々の性格を考慮しながらお互いに支え合えるような支援を提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院または他施設への入居の際に、必要に応じて相談・支援するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメント・モニタリングを行い、カンファレンスにて検討し、プランに反映、ケアにつなげるように努めている。	利用者の様子は、見学申込書、フェイスシートで確認し、課題整理総括表により19項目の内容の支援内容を把握している。モニタリングでは嫌いなものを食べるように心がけるなど対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族・本人の生活歴・サービス利用経過等の状況を確認し、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日々の状況を記載しており、状況把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の意向については意向確認書の 取り交わしを基本に、必要に応じて話し合い、介護計画に反映するように努めている。	課題を把握して速やかに計画に反映している。血圧が不安定な状況に対しバイタル測定を増やす、排便が3日以上になれば薬を使用する、筋力の低下を散歩により防ぐなどの対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌を通じ、カンファレンス・申し送り時に個々の情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の状況に応じた柔軟な支援・サービスが提供できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公民館・スーパー・成田山新勝寺等、個々の暮らしを支えている地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び御家族の希望のかかりつけ医の推進し、かかりつけ医と事業所の関係を構築しながら適切な医療を受けられるように支援している。	入所前のかかりつけ医への受診を大事にしている。医師に症状経過、変化を伝え相談し、具体的な指示を受けている。状況で入院、改善し退院している。個々の状態に合わせた受診支援が実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師がいない為、母体のクリニックに相談しながら、適切な受診・医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会や、担当医・看護師との相談、御家族と連絡を取りながら、本人の状況に合致した治療・退院支援・療養型施設への入所等、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に御家族に意向確認書を記載して頂き、本人の状況の変化に応じて意向を共有できるように努めている。	年に一度、利用者の急変時、終末期にはどうしたいか、家族の意向を確認している。その意向を個々の主治医と共有し、状況変化に対応できるようチーム支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は定期的に受講できていない。受講し施設内で共有していけるように、努めていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度防災訓練をまだ実施できていない。本年度中に実施予定である。避難方法については、常時理解して頂ける様に伝え、避難経路図を掲示している。	3月に消防署立会いで、火災想定避難訓練を予定している。近隣にも声かけを予定している。近年は地震が多い。地震があると、職員には慌てて外に誘導しない等、その時の緊張感を活用した訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、特に入浴時や排泄介助時にはほこりやプライバシーを損ねないように心がけている。	利用者の羞恥心に配慮し、人格を尊重した声かけ、個々の思いを受け止める対応を行っている。管理者と職員は、利用者個々の心と全利用者の安寧を図るべく、連携しながら熱心に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表しやすいように、コミュニケーションを取りながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを尊重しながら、出来る限り希望にそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の希望に応じて、訪問美容院にきて頂いたり、御家族の協力の下、馴染みの美容院・理容室へ行って頂いたりし、対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知の進行により、一緒に食事の準備や片付けが出来ていない。誕生会等には楽しい食事となるように、お寿司や惣菜等を購入したり等、工夫している。	テーブル拭きやホットケーキの素を混ぜる等を、職員と一緒にやっている。誕生会には寿司が喜ばれている。宅配の惣菜が物足りないときには、刺身等を買って足し、食事が楽しいものになるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の確認を個人記録に記載し、職員が摂取量を把握できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状況に応じて、口腔ケアウエットや口腔ブラシ・歯ブラシにて毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄間隔・身体状況を把握し、状況に応じた排泄の支援を行っている。	排泄パターンを把握し、個人記録に記入している。排便が3日なかったら話し合い、薬量を加減する等、状況に合う支援に努めている。夜中は個々の間隔でオムツ交換、睡眠を優先等状況で判断し支援している。	全員の排泄状況が1枚で把握できるようにしていたが、個人記録への記入と2度手間になることから止めている。誘導忘れせず分かりやすいので活用先等状況で判断し支援している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌の摂取や整腸剤・下剤の内服を利用者個々の状況に応じて対応し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は設けているが、本人の希望や状況に応じて個々にそった支援を行っている。	毎日入浴の準備をし、週2回は入浴している。便失禁等で入浴することもあり、柔軟に対応している。異性介助には、羞恥心や情けない思いをさせないように、バスタオル等で配慮した清潔保持支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣・その時々身体状況を考慮し、安眠・休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表ファイルを作成し、職員が常時確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を考慮しながら、洗濯物を畳んだり干したり、地域資源を利用した外出等、楽しみや役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者個々の状況を把握し、希望を考慮しながら、道の駅や成田山公園等、ドライブや散歩に出かけられるよう支援している。	ほぼ毎日、1時間余の散歩にも応えている。同法人のバスで、道・空の駅、風土器の丘等へ、おやつ持参で出かけている。イオン等で買い物、成田山が近く外出先に恵まれている。車椅子利用者も増えているが、お天気状況で、職員で気軽に支援できている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理をできる利用者がおらず、施設にて金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙については、御家族や・知人の同意を得ながら支援を行っている。電話については、同意を得られていない為、支援はしていないが、状況に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は特に見られていない。共用空間の空調の調整を行い、快適な温度を保てるように配慮している。	エアコン3台と加湿器で、温度・湿度を調整して快適に過ごせるように気配りしている。共用空間は広く、ゆったりとくつろぐ利用者同士、時どき職員が加わりテレビを一緒に見ている。豆まきや七夕祭りの季節行事は、一緒に飾る等で楽しめるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや自室を自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを自由に持ち込んで頂き、安心できる環境を作っている。	愛用のベッドや写真、仏壇等で自分の部屋にしている。個々の性格を尊重し、全員が居心地よく過ごせるように細かい気配りが見られる。外見だけでは分からない配慮を感じた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のバリアフリーや手すりの設置にて出来るだけ安全で自由に生活できるようにサポートしている。		